

## 大 会 宣 言 (案)

瀬戸内の現状をうれい、豊かな明日を熱望するわれわれは、神戸市において 2 日間にわたり、第 4 回 瀬戸内シンポジウムを開催した。

シンポジウムでは、研究者、市民、漁民、労働者、自治体および報道関係者の参加のもとに、住民の立場からの瀬戸内の環境の保全と回復、ならびに公害規制と住民運動について報告を受け、討議が行なわれた。われわれはこの成果をふまえ、瀬戸内の状況の根本的な改善への提言をおこなわなければならない。昨年<sup>末</sup>~~末~~、岡山県水島コンビナートで発生した三菱石油重油流出事故の報告は、われわれに新たな怒りをもえあがらせるとともに、かたい決意を固めさせた。巨大コンビナートの危険性は、早くから瀬戸内シンポジウムで警告していたところである。にもかかわらず、これを無視し、強引に開発を進めてきた政府・大企業の責任は重大である。とくに、今回の事故は、一個の重油タンクによって引き起こされたものであるが、瀬戸内海沿岸は各種のタンクが林立し、狭い水道を巨大なタンカーが往き来している現状では、つねに今回に数倍する事故の危険にさらされている。三菱による責任の回避を許さず、瀬戸内とともに住民が安心してくらせるために、今こそ政策を根本的に転換することが求められている。

われわれは、かかる破滅的な災害から瀬戸内を守り、その保全と回復をめざして、科学者と住民の協働のもと、一層奮闘することを宣言する。

1975 年 1 月 26 日

第 4 回 瀬戸内シンポジウム